

遠軽町長 佐々木 修一様

遠軽町文化センター（仮称）等の建設に関する進言書

平成23年10月7日

遠軽町文化センター等を考える会

会長 伊藤 菜三

はじめに

遠軽町文化センター等を考える会（以下「考える会」という）では、長年の懸案事項である文化センターの建設について議論を深め、さまざまな角度からその可能性を探り、その建設の是非と、合わせて老朽化した遠軽町福祉センター（以下「福祉センター」という）の建替えについても検討を行い進言することを目的として、平成22年10月から平成23年10月まで会議を重ねてきました。

その結果、福祉センターの建替えについては、建築後43年を経過し、老朽化が著しく進んでいることや耐震構造でないことなどから、取り壊して建替えるという結論になりました。

その結論を受けて総合的に判断した結果、文化センターについては福祉センターの機能を有する施設として、次のように建設するよう進言します。

1 遠軽町文化センター（仮称）建設の必要性について

文化センターの建設の是非についてさまざまな議論を行う中で、「町の将来的な財政計画における財政負担はどこまで可能か。」という質問があり、町からは「財政力は極めて厳しい状況にある。今後、福祉施設改築や公営住宅建設、廃棄物処理施設の整備など、多額の費用を要する事業の計画がある。これらの実施状況によるが、少子高齢や人口減少社会を考えると、必要最小限のもので、財政上は厳しく、何かを我慢する必要も当然出てくると思われる。文化センター等の建設は、財政上の問題が最大の課題。」という回答がありました。また、町民からも「現状で箱物は不要。」「人口減、財政難の中で必要か。」という意見があることが報告されるなど、慎重な意見もありました。

しかし一方では、文化センターを活用した新たな文化振興により、心の豊かさ、生きがい、出会いなどを支援することができ、また、地域の新しいコミュニケーションの場として、人と人との絆を深め、人の輪を広げる役割を担うことで「人や社会とのつながりがある安全で安心な地域社会」を育むことができることも指摘されています。言い換えると、文化センター建設は、人間らしい豊かな人生を送ることのできる環境づくりに大きな一歩を踏み出すことになり、文化活動の拠点としての役割が住みごこちの良い町・暮らしてみたい町という郷土愛を深め、町民の文化・芸術・芸能全般に関する潜在意識を喚起し、向上させながら、結果として品性のとれた魅力ある町への理解と発展につながり、さらには、観光や商業、農業などの産業や住民福祉など地域社会のさまざまな分野と連携することにより、交流の場、にぎわいの場として地域経済の活性化

に寄与するものと思われます。

考える会ではこのような思いを重視し、「音楽を中心とした文化活動を生かして、文化面から町の活性化を図るとともに、経済産業活動・地域活動の拠点となる“町民のよりどころ”を作り、育てることがこれからの町づくりには重要である。」という意見が大勢を占め、総合的に検討した結果、最終的には全会一致で「福祉センターの代替施設としての役割も担った文化センターを建設すべきである。」という結論に至りました。

2 ホールの主目的と施設の規模や内容について

文化センターのメインホールは、ホールの主目的である「音楽を中心とした文化活動」で十分使えるよう、音響を重視した広い舞台をもつ施設とし、客席は600席程度の固定席に200人程度の立見席を有するものであること。また、多目的利用が可能な平土間（平床）のホール、さらに音響の良いリハーサル室や広い和室、複数の会議室・楽屋などを備えるとともに、各室が複数の機能を兼ね備えるなど、さまざまな工夫を凝らした使いやすいものとする、という結論に至りました。

3 建設場所について

これからの町づくり・人づくりを考えた場合、建設場所は次の選定の理由により、町の市街地中心部である旧遠軽中央病院跡地及び周辺に建設するのが最善であるという結論に至りました。

1) 交通アクセスが良いこと

建設場所として福路、太陽の丘、公設グラウンド、東町（野球場近郊）、瀬戸瀬などの意見がありました。が、利便性の良いJR遠軽駅や北見バスターミナルの近くに建設するのが最良です。さらに、生田原・丸瀬布・白滝地域の方々や高齢者のことを考えるとなおさら交通アクセス（利便性）を重視すべきです。

2) 地域活性化

遠軽地域内の福路、太陽の丘、公設グラウンド、東町（野球場近郊）に建設した場合、そこから市街地中心部に移動することを考えると、遠軽中心部への人の流れが途絶えてしまい、経済の活性化につながらず、さらなる過疎化が進行する懸念があります。そのため、福祉センターの役割も担っ

た文化センターは、遠軽の市街地中心部に建設するのが最善であると思います。

人々が交流し絆を深める場、にぎわいの場であり“町民のよりどころ”となる新しい施設の創出は、地域活性化にもつながるため、この町に暮らす多くの町民の願いであると思います。

3) その他

岩見通コミュニティー広場駐車場を有効に活用することができます。

4 遠軽町文化センター（仮称）建設にあたっての付帯意見

遠軽町文化センター（仮称）の建設を進めるに際しては、次の各項目について配慮願います。

- 1) 基本設計、詳細設計を実施する際は、町民の意見を十分に聞いて進めること。
 - ①具体的には、町民有志による新たな会を設置し、設計内容や関連する必要事項の情報などを随時提供すると共に、必要に応じて会合を開くなど、意見交換を行う機会を積極的に設けること。
 - ②その会の委員には、遠軽町文化センター等を考える会の委員を半数以上含めること。
- 2) 遠軽町文化センター（仮称）の運営については、施設の目的が果たされるよう十分に考慮すること。
 - ①施設建設が正式に決定後、町民参加をどう進めていくのか、どのような事業を行うのか、利用をどう高めていくのか、どのような管理を行うのかなど、運営や維持管理について十分に検討すること。
 - ②商業施設や展示スペースなどについても検討すること。
- 3) 駐車場については、収容人員に対して十分なスペースを確保するよう努めること。
- 4) 施設の名称については広く募集すること。